

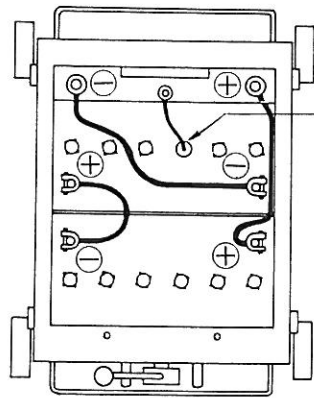
RYOBI

電子ウエルダ

T-140

取扱説明書

・バッテリー結線図



液面検出キャップの
取付位置

〈注意〉

- ・バッテリーターミナルは強く締付けて下さい。
- ・本体とバッテリーケースは前後を間違えない様に組付けて下さい。
- ・液面検出キャップは⊖端子より3槽目に取付けて下さい。

・ご使用前に取扱説明書をよくご覧の上、正しくご使用くださるようお願いいた

■保守と点検

- ・一ヶ月に一度はバッテリー液の量を点検して下さい。
バッテリー液が少ない時は蒸留水を補充しますが、液を入れ過ぎますと充電中に液が噴出しますので注意して下さい。
- ・使用後はバッテリーを満充電にしておくと、バッテリーが長持ちします。
- ・使用しなくてもバッテリーは自然放電しますので、一ヶ月に一度はバッテリーの充電を行って下さい。
- ・バッテリーの上面に液が漏れたり、汚れたりしていると漏電、引火の原因となりますので、常にきれいにして乾燥した状態を保って下さい。

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い
上ご不明な点があった場合にはご遠慮なく全国各地のリョービパワーツール取扱い販売店、リョービ販売営業所にお問い合わせ下さい。



発売元

リョービ販売株式会社
RYOBI

製造元

有限会社 小倉技研

〒804 北九州市戸畑区沖合1丁目5番29号
電話 (093) 882 3575

この度は、当社製品をお買上げ下さいまして誠にありがとうございます。
ございます。

本機はきっと貴方のお仕事のお役に立つものと確信いたしております。

ご使用前に本取扱説明書をよくご覧のうえ適切な取扱いをして、末永くご使用くださいますようお願いいたします。

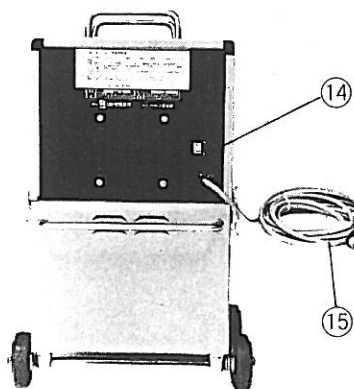
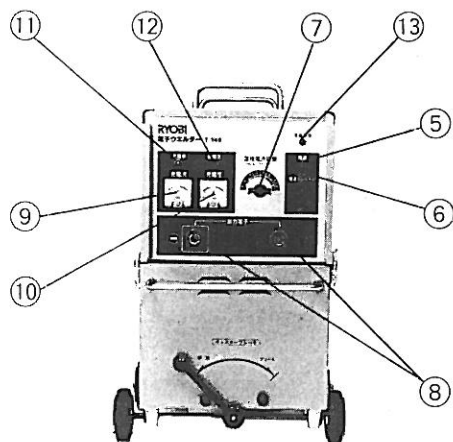
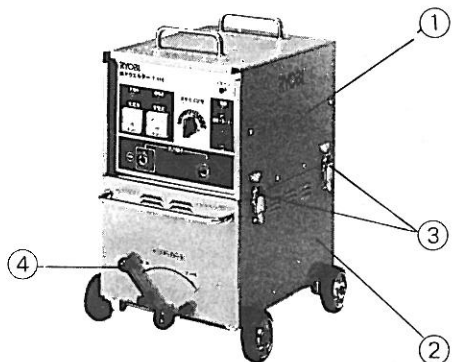
■ご使用に当たりましたの注意事項

ご使用前には必ず取扱説明書を十分読み、指定された以外の用途にお使いにならないで下さい。

- 可搬式溶接機ですが、溶接作業をする時は平坦な場所でキャスターブレを掛けて使用して下さい。
- 充電中には水素ガスが発生します、空気中に水素ガスが30%滞留します火する恐れがありますので換気の良い所に設置して下さい。
又、溶接作業時に火の粉がかからない場所（3メートル以上離す）に置く常に心がけて下さい。
- 作業中は手袋、お面を着用して下さい。
- 雨中での使用はしないで下さい。
- 電源側の漏電による感電防止の為に入力コンセントのアース端子を接地して下さい。
- 本溶接機は直流溶接機ですので、労働安全衛生法による出力側の電撃防止を設置する必要はありません。
- 直径の細いコードリールを使用しますと、電圧降下により本機的能力がします。2ミリ以上のコードリールを使用するようにして下さい。
- 使用後は、電源ブレーカーを切り電源コードを抜いて下さい。
- 整備点検後、部品交換の際には必ず電源ブレーカーが切れている事を確認電源コードを抜いて下さい。
- バッテリー交換の際には接続を間違えないように注意して下さい。
接続を間違えますと故障の原因となります。
- バッテリーは絶対にプラスとマイナスをショートさせないで下さい。
ショートさせますとバッテリーの電極板が劣化したり、破損の原因となります。又、バッテリーターミナルは強く締め付けて下さい。
- バッテリーは12V50AHのものを、必ず2本直列に接続して下さい。
バッテリー1本又は3本以上で使用されますと故障の原因となります。
- 輸送中などは、本体とバッテリーケースは外して下さい。
ショートの危険性があります。
- バッテリー液は一ヶ月に1度は必ず点検して下さい。補充液は蒸留水をして下さい。

■各部の名称、機能

- ①溶接機本体
- ②バッテリーケース
- ③固定フック
フックを外すと溶接機本体とバッテリーケースが分離します。
- ④キャスターブレーキ
前輪をロックします。
- ⑤電源ランプ
電源ブレーカーを入れると点灯します。
- ⑥電源ブレーカー
溶接時及び充電時の入力電源スイッチです。入力電流が20A以上流れると安全ブレーカーが働きます。
- ⑦溶接電流調整つまみ
溶接棒の径に合わせて溶接電流を調節して下さい。
- ⑧出力端子
溶接コードを接続する端子です。
- ⑨充電電流メーター
充電中の電流を表示します。メーターの針が緑印範囲内を指しましたらほぼ満充電です。
- ⑩充電電圧メーター
バッテリーの電圧を表示します。
- ⑪充電ランプ
充電中に点灯します。
- ⑫低電圧ランプ
バッテリーを充電しても電圧が上がらない時に点灯します。
- ⑬液面適量ランプ
電源ブレーカーをONにすると点灯します。点灯しない時はバッテリーの液量不足ですので点検して下さい。
- ⑭周波数切換スイッチ
使用される地域に合わせて周波数を50Hz、又は60Hzに切り換えて下さい。
- ⑮電源コード



■特長

アークの伸び、溶け込みが良い

バッテリーの電圧は24Vですが、溶接電圧は48Vですので強力なアークが得

3.2ミリ棒で使用率30%

3.2ミリ棒を使用率30%にて連続7時間使用できます。

充電時間が短い

バッテリーの放電状態に合わせて充電電流を無段階に自動制御しますので、良い充電が行なえ、充電時間が短くて済みます。

本体は2つに分割できます。

本体を2つに分ける事で、移動や持ち運びも容易にできます。

バッテリーの保守管理が容易

バッテリー液が減った状態になると、バッテリー破損時のトラブルを事前に、電源を遮断しますので使用できなくなります。

その様な場合には液面適量ランプが消灯しておりますので、バッテリー液として下さい。

溶接電流は無段階に調整できます。

トランジスタ、サイリスタ制御方式により、溶接電流調整つまみで最適電出せます。

バッテリーの接続ミス解消

バッテリー交換の際に、プラス・マイナスの接続を間違えた場合、本体のブザーが鳴り警告します。

■仕様

入力定格	AC 100V 50/60Hz 2KVA	
充電出力定格	48V	5~45A
使用率 [%]	30	
溶接電流範囲 [A]	30~145	
冷却方式	強制空冷	
充電電流切換	自動無段階切換	
溶接電流切換 [mm]	無段階切換	
整流方式	サイリスタ制御方式	
使用バッテリー	12V 50AH×2本	
最大溶解棒径	3.2	
機体寸法 幅×長さ×高さ [mm]	525×425×645	
重量 [kg]	本体	25
	バッテリー	40

■通常付属品

- ・バッテリー 2個
- ・バッテリー液

■特別付属品(別売)

- 溶接キット
- ・溶接ケーブル(22mm² 10m ⊕・⊖各1本)
- ・溶接ホルダー
- ・アースクリップ
- ・手持面
- ・皮手袋
- ・溶接棒(2.

■使用前の準備

1. バッテリー液を入れる。
新品時にはバッテリー液は入っておりません。
バッテリーキャップを外してバッテリー液をバッテリーの各槽に均等に入れて下さい。キャップは確実に締めて下さい。(検出キャップは⊖端子より3槽目)
2. 本体とバッテリーケースを接続して下さい。
4ヶ所の固定フックにて固定しますが、前後を間違えないように組付けて下さい。
3. 周波数切換スイッチを合わせる。
使用される地域の電源周波数(50Hz又は60Hz)に合わせて下さい。

■バッテリーの充電

使用前にバッテリーを充電して、溶接可能な状態かどうか確認して下さい。

充電方法

- ・電源コードを差し込みます。(100V 20A以上必要です)。
- ・電源ブレーカーをONにすると、充電ランプが点灯して自動的に充電を行います。
- ・充電電流計が10A以下(緑印範囲)になりましたら、溶接可能な状態ですが、更に充電を行うと電流計が0Aを指し満充電の状態になります。

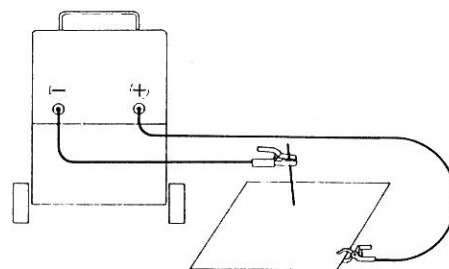
■使用方法

- ・溶接コードを接続して下さい。
- ・通常溶接の時はアースクリップを出力端子の⊕側に、肉盛溶接の時はアースクリップを⊖側に接続して下さい。(6ページの図参照)
- ・電源コードを差し込み、電源ブレーカーをONにします。
(電源の無い所では溶接できませんので注意して下さい)
- ・使用される溶接棒の太さや溶接姿勢に合わせて溶接電流調整つまみで電流を調整して下さい。
- ・溶接時には手袋、お面を着用して、使用率を守ってご使用下さい。(下表参照)

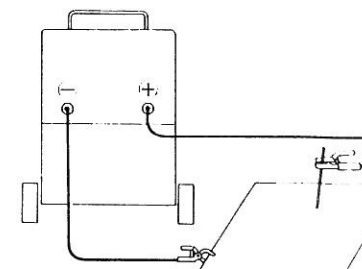
溶接棒の径	φ1.6	φ2.0	φ2.6	φ3.2
使用率	60%	50%	40%	30%

- ・使用率とは
30%の使用率であれば、10分間のうち3分使用して、7分休む事です。

通常溶接



肉盛溶接



液面適量ランプが点灯せず溶接できない時

- ・バッテリー液が不足しておりますので蒸留水を補充し、充電してから行って下さい。

使用中にブレーカーが落ちる時

- ・線径の細いコードリールを使用していないか確認して下さい。
- ・使用率をオーバーして使用していませんか?
少し休んで(充電して)下さい。

低電圧ランプが点灯したり、すぐアークが弱くなる時

- ・溶接を始めて急に充電電圧メーターが16V以下になる時は、バッテリー量が減少しておりますので、充電をして下さい。
- ・充電しても変わらないときは、バッテリーを交換して下さい。

バッテリーの交換方法

- ・電源コードを抜いて電源ブレーカーをOFFにして下さい。
- ・4ヶ所の固定フックを外して本体とバッテリーケースを分離して下さい。
- ・バッテリー端子のコードを外して下さい。
- ・新品のバッテリーと交換して下さい。
- ・結線を間違えないように接続して下さい。
万が一、⊕と⊖を間違えて接続した場合はブザーが鳴る様になってお